

説明資料

2022年11月30日

ダム事務所から、午前 6 時 0 8 分

「**放流量が毎秒 1 7 5 0 トン**になること」が伝えられる。

しかし、住民に伝えなかった。

伝えられていれば、死亡者は出なかった。

住民は避難をしたはずだ

放流量が毎秒 1 7 5 0 トンであれば、家屋の二階の天井まで浸水

家屋にいる者は、そのまま避難しなければ死亡する。

↓ 知らされれば

逃げ遅れてはいけない。

早めに避難をする。

↓

助かる

知らせる方法

- ・ 防災無線の放送
- ・ 消防団の呼掛け
- ・ 消防車のサイレン
- ・ 広報サイレン

特に 防災無線は大森宅、入江宅にもあった

大森夫妻①

- ・ 妻勝子は、6時前に仕事先から自宅へ戻る
- ・ 帰宅途中、先を急いで避難する人はいない
- ・ 避難の準備を始めていた
- ・ 市から知らされないなので、浸水で玄関の開き戸が開かず
に避難できず

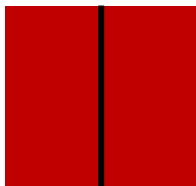
道路から川を見る



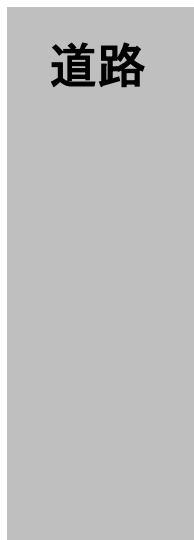
大森夫妻②

- ・避難訓練が今までにない
- ・ハザードマップの作成がない
- ・急激な浸水についても予想できず

大森邸

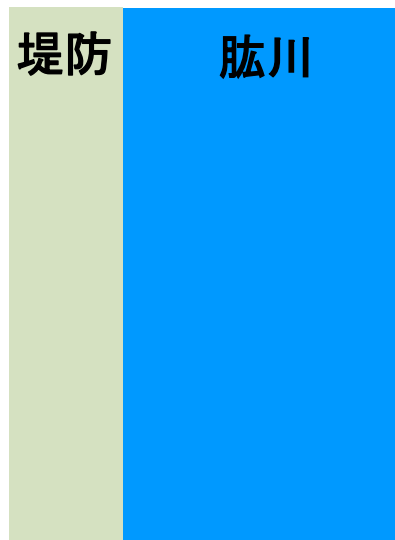


道路

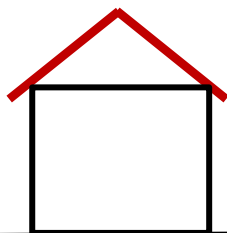


堤防

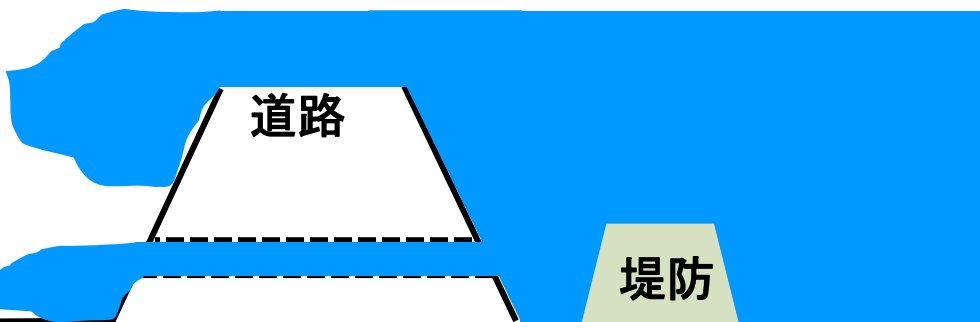
肱川



大森邸

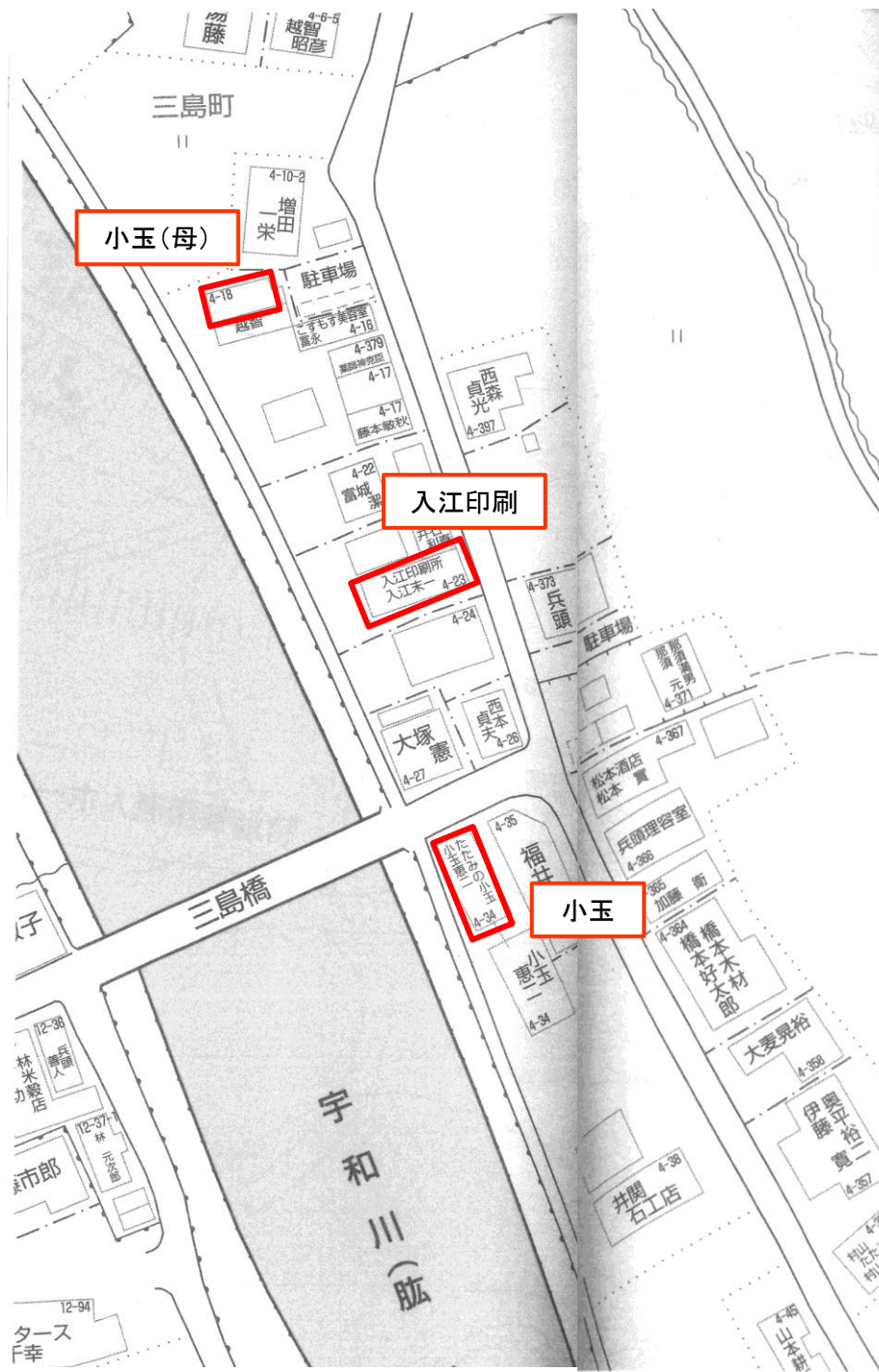


道路



入江

- ・ 6 時過ぎ 藤本が訪問
- ・ 避難の話をする。
- ・ 川を見に行っており、「現在の水位からまだ大丈夫だ。」と話す
- ・ 市が知らせるための措置をすれば その直後に知らせを受けたはず → 避難した



逃げ遅れた人々



結果として避難したが、市が知らせるための措置をしていないから、逃げ遅れた